

育成会運動と障害者を取り巻く情勢

♥《育成会はいつからあるの?》

1950年代……戦後の混乱期以来、4日に1件位の割合で、新聞に「障害児殺し」・「母子心中」の記事が掲載され、減刑嘆願の運動が起こっていました。

♥〈全日本手をつなぐ育成会〉

1952年……「精神薄弱児育成会」(別名「手をつなぐ親の会」)設立

3人の母親が「知的な障害」のあるわが子の幸せを求めて活動を始め、全国の仲間の親たちに、手をつなぎ施策の充実を求めようと呼びかけたことがきっかけで設立されました。

また、その呼びかけに答えて、親や関係者が立ち上がり、全国47都道府県すべてに「手をつなぐ育成会」が結成され、現在はその連合体として「全日本手をつなぐ育成会」があります。

- 各地で「本人の会」も設立されていて、活動には本人の意見が反映され、レクリエーションや話し合いなど活発な活動が行われています。
- 「事業所協議会」(旧作業所・通所施設協議会)を結成し、育成会活動と連携をとりながら「働く場」「就労」などに向けて活動の強化を進めています。
- 全国で約30万人の会員がいます。
- 現在、知的障害者の当事者団体(本人と家族の団体)としては知的障害の団体としては、唯一国に公認され、その代表として活動している団体です。

♥〈滋賀県手をつなぐ育成会〉

1953年……「滋賀県精神薄弱者手をつなぐ育成会」(別名「滋賀県手をつなぐ親の会」)設立

親と関係者が協力し、滋賀県内の知的に障害のある人たちの理解と幸せを求めて立ち上がりました。

- 1956年～1984年をかけて県内50市町村全てに「手をつなぐ育成会」が結成されました。(現在は市町村合併により19市町)
- 現在、約2,000人の会員がいます。

♥<世界の育成会>

1960年……「国際育成会連盟」設立

知的障害者の権利擁護のために活動しています。

☛ 国連で公認されている障害者団体です。

☛ WHO・UNESCO・世界銀行・ILO・UNICEFなどと連携しています。

☛ 全日本手をつなぐ育成会からも理事が出ています。



♥<育成会の運動で実現して来た制度>

◎療育手帳の発行

◎20歳未満の障害児の扶養手当制度

◎作業所作りの運動と実現

◎入所施設作りの運動と実現

◎障害者基礎年金制度

◎自動車税の減免制度

◎所得税・住民税の減免制度

◎相続税・贈与税の減免制度

◎公共交通機関の運賃の割引制度（飛行機・JR・バス等）

◎NHKの受信料の免除制度

◎養護学校（特別支援学校）設置運動で障害児の全員就学制度

◎障害種別ごとの障害児学級設置（特別支援学級）

◎心身障害者扶養共済の給付金を本人の収入と見ない（自立支援法）

◎本人の資産要件の撤廃（自立支援法）

◎車のシートベルトの特別免除（パニックになるなど返って危険な場合）

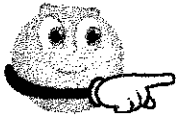
◎重度心身障害者医療費給付制度（県・市町制度）

etc・・・。

♪♪さまざまな制度が育成会の全国的な運動の結果で実現し、全国の多くの障害のある人や家族はその恩恵を受けています。

♪♪一人では出来ない大きな運動を、全国の仲間や滋賀県内の仲間とともに、わが子が将来も安心して暮らせるように、さらに新しい仕組みや制度を作りましょう。

♪♪親がいなくても、本人の生活が安心して豊かなものになるための環境を皆で作りましょう。



♥<教育の充実について>

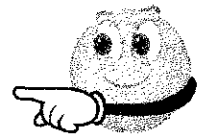
- 現場の教職員の増員と専門性の実現
- 障害と発達と今後の生活を見据えた教育の実現
- 本当に一人一人に寄り添った個別支援計画と、ていねいな教育の実現
- 特別支援コーディネーターは、有効に活用される制度となるよう実現

♥<就労の場について>

- ☞大不況の中での雇用先と仕事の実現
- ☞卒業後の進路先の実現
- ☞本人に合った仕事と所得の実現

♥<地域での暮らしについて>

- *強度行動障や医療の必要な人の、暮らしの場の実現
- *GHやCHでの、安全で安心できる暮らしの実現
- *目で見えてわかる、納得できる、本人の地域生活の実現
- *余暇活動の場など地域生活支援の拡大・充実の実現



- ☞もっと話し合おう！ 願いや夢は口に出さないとわからない！
- ☞悩みは「夢」の裏返し、明るく・根気強く、夢と願いを実現しよう！
- ☞いきいきと夢をかたり、堂々と要望しよう！
- ☞皆でネットワークをつくろう！
- ☞皆でみんなの豊かな暮らしを実現しよう！
- ☞皆の力を合わせよう！
- ☞皆の声を届けよう！
- ☞市町行政とのパートナーシップで英知を結集させて希望を実現しよう！